

聖マリアンナ医大新聞

聖マリアンナ医科大学・新聞編集委員会 〒216-8511 川崎市宮前区菅生2-16-1 ☎044-977-8111(代) 総務課
http://www.marianna-u.ac.jp

主な内容

- 令和6年度 医学部卒業証書・学位記授与式 / (第1面)
看護専門学校卒業証書授与式 / 他
- 受賞者からひとこと (第2・3面)
- 令和6年度大学院医学研究科 学位記授与式 / 他 (第4面)
- 定年のごあいさつ / 他 (第5・6面)
- 令和7年度医学部入学式 看護専門学校入学式 / 他 (第7面)
- 就任のあいさつ / 令和6年度 国家試験結果報告 (第8・9面)
- 科学研究費補助金・交付決定者一覧 / 他 (第10・11面)
- 附属病院・施設だより / 他 (第12面)

令和6年度第49回 医学部医学科卒業証書・学位記授与式

『無知の知』を胸に 医の道へ

第49回医学部医学科卒業証書・学位記授与式は令和7年3月7日(金)午後1時より医学部本館6階大講堂で執り行われた。

今年度の卒業生は110名。一人ひとりに北川博昭学長より卒業証書・学位記が手渡された。続いて「明石賞」、「医学会賞」、「聖医会賞」、「保護者会賞」が表彰された。(2面に受賞者の声)学事報告では加藤智啓医学部長より、「本学医学部医学科を卒業する諸君は、6年間の厳しい医学の道を切磋琢磨し、総時間数7,110時間を履修し、所定の課程を修了いたしました。これにより、『生命の尊厳』について深い認識を持ち、人類社会に奉仕し得る医師となるために、正しく判断し、正しく行動し、そしてそれらを生涯にわたって実践し得る基礎を確立するという、本学のディプロマ・ポリシー、すなわち、卒業時の到達目標を達成しま



加藤智啓 医学部長

した」と報告があった。北川博昭学長は式辞で「日本語では“無知の知”という概念があり、これは古代ギリシャの哲学者ソクラテスが述べたと言われています。『私がそれを知らないということを認識している』ということです。知ったつもりにならず、自分がいままだにわからないことはわからないと認識するべき、という考え方です。諸君は医師となり、知らないこと、わからないことだらけです。これを恥と考え、誰かに聞かなければ、その結果、患者が亡くなるということを理解しなければなりません。学生時代は留年することで解決しました。しかし、医師となり、それを自分の職業とする我々は、無知は患者の命に直結し、救える命が救えなくなることを肝に銘じなければなりません。また、大学で多くの知識を詰め込んだ諸君が、その知識をどのように使



北川博昭 学長



明石勝也 理事長



北川博昭学長より卒業証書を授与される荒川茜さん

い、それらを組み合わせ、意見の異なる人たちに対して、自分の考えを述べられるように成長することが必要です」との言葉を贈った。

明石勝也理事長は祝辞で「諸君の卒業にあたって是非とも銘記して欲しいのは、これから医療界、医療提供体制や医療にかかわる仕組みのすべてが、社会からの要請、市場の論理によって大きく変えられる可能性が高まっている時代を迎えており、医療における市場競争社会の始まりです。モノやサービスの価値や価格は市場が自由に決めるというのが市場経済の原則であります。この原則が徹底されれば、外科医不足などは生じないに違ひありません」と大海原へ船出する卒業生に説いた。

また、聖医会の岸忠宏会長から、「どの仕事もある意味徒弟関係があります。机上の知識では学べない、手技や患者さんへの対応など先輩医師の行動をよく見て、受け身ではなく自ら進んで行動し、先輩医師のスキルを吸収して良い師弟関係を築いてください」と激励があった。

続いて卒業生代表による宣誓、送辞・答辞(2面に詳細)、記念品(ステンドグラス)の寄贈、小田武彦司祭(宗教学特任教授)による祈願が行われた。この日、多くの祝福と激励を受け、卒業生たちは医療人への道を踏み出した。



岸忠宏 聖医会会長

令和6年度第46回 看護専門学校卒業証書授与式

患者さんに安心感を与え、 共に歩む姿勢を大切に

令和7年3月6日(木)午後1時、まだ肌寒さの残る菅生キャンパスにおいて、第46回看護専門学校卒業証書授与式を挙行した。3年間にわたる看護教育を経て、逞しさと自信に満ち



鈴木校長より卒業証書を授与される渡邊美咲さん

溢れた学生たちは、鈴木昌子校長から卒業証書を手渡され、医療専門課程を無事に修了した。学事報告では清水泰子副校長が、「講義・臨地実習の修得単位数103単位、2,985時間を

持ち前の元気さと逞しさで乗り越えた皆様が、卒業生としての誇りと責任を自覚し、活躍されることを期待します」と述べると、式辞では鈴木校長が、ナイチンゲールの看護観やトラベルビーの看護理論に触れ、「専門職として卓越した知識や技術を身につけることは当然ですが、重要なことは提供する医療を通じて患者様に安心感を与えることです。そのためも、患者様の尊厳を守り、様々な価値観

や人生観を尊重し、共に歩む姿勢を大切にしてください。これから的人生、難難辛苦に出会うこともありますが、絶望的な状況の中にも必ず希望の光はあります。積み重ねた努力に誇りをもち、希望を目指して乗り切ってください。今後も周囲の方々への感謝を忘れず、精進し続けてください」と激励した。また、続く祝辞では、明石勝也理事長が、「看護師の職域や職能は、医療の高度化と医師の働き方改革などを背景に急速に拡大しています。そのことによって看護師に求められる知識や技能は高まりますが、進路の選択肢が広がり、自らのライフステージに合わせた働き方ができるといった利点も生まれています。大切なのは看護師という仕事を続けることです。国内だけ



鈴木昌子 校長

なく、世界には皆さんの救いを求める声が溢れています。そのような声に共感して欲しいと思います。皆さんのが本学で身に付けたのは、知識や実技だけでなく、マリアンナスピリットであることも忘れないでください」と述べ、北川博昭学長から、「近年、国際交流事業の一環としてインドやタイなどの新興国へ医療視察に行く機会が増えたのですが、現地の医師や看護師の、ハイテク機械に頼ることなく触診や聴診で診断を行い開心術や緊急手術を上手に行う技術には、毎回驚かされるとともに、医療の原点を肌で感じています。患者様の微妙な変化から身体や心の状態を読み取ることのできる“患者様に寄り添う看護”を実践してください」と祝辞があった。さらに本館教子大学病院看護部長からも卒業生を激励する祝辞が続いた。その後、学生代表による送辞・答辞と続き(詳細は3面)、小田武彦司祭による祝福の祈りが捧げられ閉式となった。

春 夏 秋 冬

ヒポクラテスの木

昔、留学中にボストンで見つけて気になっていた木がありました。夏場はカエデに似た大きな葉が青々と茂るのですが、冬になるときれいに落葉し、ライチ

の実を茶色くしたような表面に細かい凹凸のある丸い実が枝から一個ずつ吊り下がり、さながらクリスマスツリーに飾り付けをしたような外観でした。当時は木の名前を調べる術がなかったので、私たちはそれを「ポレポレの木(仮名)」と勝手に名付けて職場への行き帰りに日々観察し

ていました。それから月日が流れ、先日息子が公園でポレポレの木の実にそっくりの実を拾ってきましたので、Googleレンズで調べて、それがヒポクラテスの実だということを初めて知りました。

ヒポクラテスはスズカケノキ科の広葉樹で、日本でも公園や街路樹など様々な場所で見ら

れますが、私たちにとって最も身近なのは「ヒポクラテスの木」ではないでしょうか。ギリシャのコス島にあるプラタナスの木陰で、ヒポクラテス(紀元前460年頃-370年頃)が弟子たちに医学を教えたとされます。この木は世界中の医学校や医療施設に株分けされており、本学の教育棟玄関

脇にもコス島由来のプラタナスが植樹されています。ヒポクラテスは、迷信や呪術を廃し、科学的観察に基づく医学の礎を築いたことで、「医学の父」とされており、医師の職業倫理について書かれた宣誓文は「ヒポクラテスの誓い」として現代にも伝承されております。

皆様も、教育棟玄関

をご通行の折にはヒポクラテスの木をご覧になり(冬季には特徴的な実を付けています)、古代ギリシャ時代から脈々と続いてきた医学の歴史に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。~人生は短く、医術は長い~ヒポクラテス医学論集より 免疫学・病害動物学主任教授 宮部齊重

医学部



第49回 医学部卒業式 集合写真

受賞者からひとこと

明石賞
金峰世

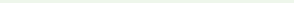
このような素晴らしい賞をいただくことができ大変光栄な思いです。6年間学業に邁進できるよう支えてくださった両親、友人、先生方、大学関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。これからもこの6年間で涵養した建学の精神に基づき勉学に励み、よき医師として、またよき人として歩んでいく所存です。繰り返しになりますが、本当にありがとうございました。


明石賞
相澤 咲衣

このたびは明石賞という素晴らしい賞を頂戴し誠に光栄に思います。49期生は国試対策委員の方々の尽力もあり、皆で一緒に頑張ろうという意識が強く、互いに助け合い協力し合うことができる学年であったため、49期生として卒業できることを誇りに思います。今後も周囲の人と互いに協力し高め合い、そして周囲の人への感謝を忘れずに医師として働いていきたいと思います。


明石賞
荒川 茜

学生生活では、学業のみならず、アルバイトや部活動にも励み、充実した日々を過ごすことができました。6年間、努力を続けることができたのは、手厚くご指導くださった先生方、ともに切磋琢磨し支え合った友人、応援してくれた先輩や後輩、そして離れていても温かく見守ってくれた家族のおかげだと感じています。支えてくださった方々への感謝の気持ちを忘れずに、社会に貢献できる医師を目指して研鑽を積んでまいります。


医学会賞
佐藤 友宏

6年を通じて、カリキュラム外の勉強についても多くの先生方にご指導いただきました。

親身にご指導くださいましたこと、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

後輩の皆さんへ。熱意さえあれば、手を差し伸べてくださる先生方が本学にはたくさんいらっしゃいます。この環境を最大限に活かし、好きなことを好きながら勉強して、将来につながる経験を積んでください。


聖医会賞
クサノ 汐里

このたびは素晴らしい賞をいただき、大変光栄に思います。在学中はクラス委員や各種委員会活動、サッカー部のマネージャーとして多くの経験を積みました。特に、仲間と協力しながら努力した日々が印象に残っており、周囲の支えがあったからこそ頑張ることができたと実感しています。支えてくださった皆さんに、心から感謝しています。後輩の皆さんも、人との関わりを大切にしながら積極的に挑戦し、充実した学生生活を送ってください。応援しています。


保護者会賞
倉石 剛

このたびは輝かしい賞を頂戴し、誠に光榮に存じます。まさか賞をいただけるとは思ってもおらず、驚きの気持ちでいっぱいです。正直、学業や部活動は面倒に感じるところが多くありました。今思えばその気持ちがあったからこそメリハリをつけて効率よく取り組むことができたと感じます。学生生活における嫌な事や面倒な事は意外となんとかなるものです。途中で投げ出さずにぜひ頑張ってください。6年間ありがとうございました。


一選考基準一
◆明石賞

6年間を通して成績が優秀であった者

◆医学会賞

卒業時の成績が優秀であった者

◆聖医会賞

成績が優秀で学生自治会等において活動が著しく将来本学への貢献が期待できる者

◆保護者会賞

学生生活の活性化及び社会活動に貢献した者

宣誓
卒業生代表
蕨 彰寛

今まで私たちは、日々医学について学んできました。新型コロナウイルスによるパンデミックを経験し、拡大してゆく感染症の脅威を目の当たりにしました。病が人の生活に与える影響力と、私たちが学んできた医療の重要性を再認識させられました。今日こうして対面で卒業式を迎えたのは、医療関係者皆様のご尽力があったからです。これからは私たちもその一員となり、地域社会に貢献していきます。

本日ご列席の先生方、そしてご家族の皆様、献身的な努力に、卒業生を代表して感謝の言葉を述べさせていただきます。長い間、ありがとうございました。

私たち卒業生は、本学の建学の精神である「生命の尊厳」を心に刻み、医の倫理を踏まえ、着実に努力を重ね、医道の実践に万全を期し、以て近代医学の進歩発展と地域社会への貢献に尽くすことをここに誓います。

送辞
在校生代表
植村 直弘

第49回卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。本日、晴れてご卒業の日を迎えられましたこと、在学生一同、心よりお祝い申し上げます。私たちが入学した時もまだ、世の中はコロナ禍にありました。不安でいっぱいの中、オンラインを通じて知識や経験を共有し、励ましの言葉をかけてくださった先輩方は、大変心強い存在でした。温かいご指導の一つ一つが、今の私たちを形作っています。

これから先輩方は、医師として臨床の現場へと羽ばたかれます。「生命の尊厳」を基調とし、愛にあふれた医療人として、無限の可能性を秘めて未来に羽ばたく先輩方を、在学生一同、心から応援しています。私たちも先輩方が築いてこられた伝統を受け継ぎ、誇りに思える母校であり続けるよう努力してまいります。

本日はご卒業、誠におめでとうございます。

答辭
卒業生代表
横川 ゆき

本日は多くの先生方、ご親族の皆様にご臨席賜り、卒業生一同、心より御礼申し上げます。6年前、満開の桜を仰ぎながら、期待と不安を胸に、この大講堂で入学式を迎えた日のことが、つい昨日のことのように思い出されます。そして今日、同じ場所で卒業を迎えることを、感慨深く思います。

6年間の学生生活では、膨大な知識に圧倒され、挫けそうになりましたが、仲間と支え合いながら乗り越えてきました。新型コロナウイルスの流行により、登校や実習が制限される中でも、学びの機会を与えてくださった教職員の皆様には、心より感謝申し上げます。

私たちは4月から、新たな世界へと踏み出します。ここで得た学びを糧に、どんな困難にも立ち向かう覚悟です。母校で学んだ「生命の尊厳」と「人類愛」を胸に刻み、誠実に歩んでいくことを誓います。在学生の皆さん、皆さんの学生生活が充実したものになることを願っています。

教職員の皆様、そして支えてくださったすべての皆様に、卒業生一同、心より感謝申し上げます。

看護専門学校



第46回 看護専門学校卒業式集合写真

受賞者からひとこと

理事長賞

つじもと ももか
辻元 桃香



この度は名誉ある理事長賞をいただき、誠に光栄に思います。今まで支えてくださった先生方や仲間、家族に心から感謝申し上げます。3年間の学校生活は、多くの課題や実習に追われて挫折することもありました。患者さんの前に立つ時は、自分の看護が本当にその方のためにになっているのか常に悩み、スタッフの皆様や先生方に助言をいただき乗り越えることができました。学んだ知識と技術を活かして、患者さん一人ひとりに寄り添い支えることのできる看護師を目指して、現状に満足することなく精進してまいります。

同窓会賞

かねだりん
金田 凜



この度は同窓会賞を賜り、大変光栄に存じます。私はこの3年間、「安全かつ安楽な看護」とは何かを追求し続けてまいりました。この言葉は入学当初の講義で初めて耳にしましたが、卒業を迎える、その本質が少しずつ見えてきたように感じております。看護師国家試験を終え、ようやくスタートラインに立つことができました。今後もこの問い合わせを深く探求し、患者様に寄り添い信頼される看護師を目指して精進してまいります。支えてくださった先生方や仲間に、心より感謝申し上げます。

皆勤賞

さかもと 里緒
坂本 里緒



3年間1日も休むことなく、皆勤賞を受賞できることを非常に嬉しく思います。毎日学校へ通えたのは、支えてくれた家族や友人、先生方のおかげです。実習や試験は大変でしたが、仲間と励まし合いながら乗り越えた日々は大切な思い出です。

これからは、患者さんに寄り添い、安心してもらえる看護師を目指して日々精進していきたいです。3年間で培った学びと経験を大切にし、現場で成長していきたいです。

一選考基準一
◆理事長賞

資性温厚で、成績優秀な者

◆同窓会賞

学生間の人望が厚く、学業に秀れ、卒業後も同窓会の発展に努めることが期待される者

◆皆勤賞

在学中に皆勤した者

送 辞


在校生代表
椿 月来

冬の寒さも和らぎ始め、暖かな日差しに春の訪れを感じる季節となりました。本日、晴れて卒業を迎えた3年生の皆様、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

今、卒業を迎える3年生の皆様はこれまでの日々に思いを馳せていることと思います。仲間と過ごした3年間はあつという間だったのではないかでしょうか。実習と課題に追われる毎日に、心休まる時間も少なかったのではないかと思います。また、この半年は3年間の集大成となる国家試験に向けて、さらに時間が足りないと思われるものもあったのではないかでしょうか。行事に実習、勉強にと必死で取り組む先輩方の姿は、私たち在校生の心に深く残っており、憧れでもありました。

先輩方との思い出を振り返ると、私たちにとって、皆様の存在はとても大きく、背中を追うばかりの日々でした。先輩方との初めての接点は学外ゼミナールでした。不安な私たちに気軽に声をかけていただき、新生活に対する不安を取り除いてくれました。私は学外ゼミナールの役員になったため、最初の行事である学外ゼミナールの運営をお手伝いする

時は、緊張と不安で一杯でした。しかし、先輩方は何一つわからない私たちに優しく教えてください、安心してついていくことができました。次の年にスムーズに進めることができたのは、先輩方からの教えがあったからだと思います。

普段の講義のこと、実習のこと、試験のことなど、勉学の面でもどんなことにも応えていただいたことは、これから学校生活の糧となり、私たちの進む道を照らしていただけたのだと感謝しております。どんな時も明るく、仲間と助け合いながら、お互いを高め合う広い心を持たれている先輩方は私たちの誇りであり、先輩方の経験から得られた言葉は、在校生にとってかけがえのないものとなっています。私たち在校生は、先輩方の築かれてきた伝統と校風を受け継ぎ、社会に貢献できる看護師として先輩方に続けるように、勉学に励んでまいります。

卒業生の皆様は、今日を境に、各が決められた新たな道に進み、夢に向かって羽ばたいて行かれることと思います。自らの無限の可能性を信じ、この3年間で学んだことを胸に、堂々と突き進んで行ってください。そして、心が寂しくなられた時は、この3年間での日々を思い出してみてください。心の財産となる思い出の数々が、先輩方の支えになることと思います。先輩方のご健康と益々のご活躍を心からお祈りし、送辞とさせていただきます。

答 辞


卒業生代表
たけうち のぶこ
竹内 信子

本日、心温まる卒業式を挙行してくださった皆様に、卒業生一同、心より感謝申し上げます。また、ご来賓の皆様、先生方、そしてこれまで私たちを支えてくださった保護者の皆様に、深く御礼申し上げます。

思い返せば、この3年間は決して平坦な道ではありませんでした。コロナ禍に、私たちは期待と不安を胸に、本校の門をくぐりました。

1年生では、放課後に看護技術習得のため、練習を繰り返し行いました。何度もやっていますが、焦りが募り、「こんな自分に看護ができるのだろうか」と思うこともあります。しかし、その度に仲間と励まし合い、少しずつできることが増えていきました。その成長を喜び、仲間との絆がしだいに強くなっていますことを、今でも鮮明に覚えています。

2年生になると、感染対策が少しづつ緩和され、他学年との交流を深める学校行事が再開されました。その中で、自分の看護観が深まり、看護の多様な視点を学ぶことができました。また、事例展開の授業では、患者様一人ひとりの個別性に合わせた看護を仲間と共に考え、試行錯誤しながらより良い看護を追求しました。その過程が自分にとって大きな学び

となりました。

そして、迎えた3年生。指導者の方や先生方のご指導をうまく理解できず、壁にぶつかることも多々ありました。それでも、患者様により良い看護を届けたい一心で、必死で取り組みました。指導者の方々は、的確なアドバイスをしてください、焦らず一歩一歩進む大切さを教えてくださいました。

体調を崩したり、チームメンバーとうまくいかないこともあります。それでも、前に進むことができたのは、患者様の温かい言葉、指導者の方や先生、そしてそっと見守り背中を押してくれた家族の存在です。これらの温かさを基礎に、語り合い支え合う同じ目的を持つ仲間たちの存在は大きいものでした。同じ立場で同じ経験を重ねている友との分かち合いは、互いの困難を乗り越える自信を生み出す力でした。

後輩の皆さん、これから多くの困難が待ち受けているかもしれません。しかし、その一つひとつが学びとなり、皆さんの力になります。一歩ずつ前へ進んでください。

いま、私たちは看護師として新たな一步を踏み出します。本校で学んだ「生命の尊厳を大切にする看護」の実践者として、これまでの学びを糧に患者様の痛みや不安に寄り添い、支えとなる存在であり続けます。最後に、本校のさらなる発展と、皆様のご健康とご多幸をお祈りし、卒業生代表の言葉とさせていただきます。

令和6年度 大学院医学研究科 学位記授与式

大学院入試委員長 高田 礼子

令和7年3月26日(水)、本学大学院の学位記授与式が、多くの教職員、新医学博士のご家族が参加されるなか、賑々しく執り行われました。当日々、明石勝也理事長、北川博昭学長、加藤智啓医学部長、遊道和雄研究科長をはじめ、新医学博士および指導教授らがアカデミックガウンを身に纏う厳かな式典となりました。

式典では、北川学長より新医学博士一人ひとりに学位記が手渡され、祝辞が述べられました。この際、令

和6年度学位授与者の中から、優秀な論文を発表した篠崎勇輔氏【高度臨床医育成コース(内科学)】、野田竜之介氏【腎臓・高血圧内科学】の2名に優秀学位論文賞が授与されました。そして、森川慶講師【呼吸器内科学】、市川大介准教授【腎臓・高血圧内科学】に優秀指導賞が授与されました。これらの受賞論文を含め、学位論文のほとんどが国際的な学術専門誌に掲載されるようになりました。今後も益々優れた学位論文が発表され

ることが期待されます。

明石理事長、遊道研究科長からも祝辞が述べられ、優秀学位論文賞を受賞した篠崎勇輔氏が答辞を述べた後、小田神父による祈願が執り行われ、学位記授与式は厳粛な雰囲気のもと終了しました。式典後には参加者による集合写真を撮影し、新医学博士及び本学の医学研究の発展を祈念し全員が想いを共有する時間となりました。

大学院には、次世代の医学教育、

研究並びに医療を担う有能な医療人・医学専門家を養成し、医療と学術研究の発展向上を通じて社会の充実に貢献することが求められています。来年度も多くの方が、大学院に進学されることを期待しております。



優秀学位論文賞を受賞した篠崎勇輔氏(左)、野田竜之介氏(右)



優秀指導賞を受賞した森川慶講師



クリニカルクラークシップスチューデント 宣誓式

2024年12月20日(金)午後3時から、医学部本館6階大講堂において、新たに臨床実習に臨む医学部第4学生のクリニカルクラークシップスチューデント宣誓式が挙行され、出席した122名の学生に対し、臨床実習生としての自覚を新たにするため、大学からケーシー、聖医会から白衣がそれぞれ贈呈された。本式は、臨床実習前共用試験(CBT・OSCE)に合格した一定水準の医学知識・診療技能及び態度を有することが認められた医学生をクリニカルクラークシップスチューデント(臨床実習生(医学))と認め、臨床実習開始前に医療に携わる責任感、医師としての

使命感を再認識させることを目的に開催している。式に先立ち、北川学長から「医療は信頼出来る医師にのみに許される行為です。正々堂々、凜として全人の医療を尽くす、光り輝くクリニカルクラークシップスチューデントであることを願っています」と式辞が述べられた。

続いて、学生代表の内田安美君から、「自らを省みる姿勢を忘れず、常に自らの判断・行動・態度を内省し、患者さんを中心に据えて臨床実習に取り組みます」と4年生全員で作成した宣誓文が読み上げられた。また、祝辞では、加藤医学部長、川畑カリキュラム委員長から、それぞれ臨床

実習での心構えと、激励の言葉が贈られ、参列者一同が4年生の新たな

門出を祝福した。

教学部 教育課 主任 藤原悠哉



令和6年度 定年退職者一覧			
区分	所属	役職名	氏名
医学部	消化器・一般外科学 生化学(生化学) ナースサポートセンター 消化器内科学 解剖学(機能組織) デジタルヘルス共創センター 医学情報センター図書情報課 循環器内科学 医学情報センター図書情報課 耳鼻咽喉科学	主任教授 主任教授 執行役員 教 授 講 師 参 事 課 長 主 幹 課長補佐	大坪 毅人 加藤 智啓 高橋 恵 安田 宏 右高 潤子 有田 恭隆 諸戸 真由美 桜井 真弓 澤木 直子 秋山 恵子
		執行役員 師 長 師 長 担当課長 主 幹 主 幹 技術課長補佐 主 查 主 查 主 查	本館 教子 加藤さとみ 東郷 淳子 鳥島 和子 井上 年幸 安田 玲子 片野早江子 木村 孔美 桑原 貴子 前里美和子
大学病院	看護部 看護部 11南病棟 事務部医事課 診療放射線技術部 臨床病理診断技術部 臨床検査技術部 事務部管理課 事務部管理課 診療放射線技術部	執行役員 師 長 師 長 担当課長 主 幹 主 幹 技術課長補佐 主 查 主 查 主 查	本館 教子 加藤さとみ 東郷 淳子 鳥島 和子 井上 年幸 安田 玲子 片野早江子 木村 孔美 桑原 貴子 前里美和子

区分	所属	役職名	氏名	
西部病院	薬剤部 11東病棟 画像センター(看護) 中央手術・IVRセンター 腎臓病センター血液浄化ユニット 11東病棟 外来 外来 外来	主査 主任 主任 主任 主任 主任 主任 主任 主任 主任	星 結花子 山崎ひろ子 小倉 明子 橋若あけみ 曾我部和枝 渡邊三佐代 宮崎 秀子 小松 京子 山田 弘美	
	周産期センター新生児部門 感染制御室 診療情報管理室 周産期センター母性部門 臨床検査部 画像診断・治療部 事務部総務課 栄養部 外来	師長 師長 主任 副師長 主任 主任 主任 主任 主任 主任	金山 佳子 細川 聖子 粟生知恵子 澤田 千恵 千葉 裕子 市瀬 雅寿 本間美砂子 岡崎 宜子 浅原 直美	
	多摩病院	看護部 事務部医事課 外来	部長 主任 主任	井上ふみ子 湯原 節子 松浦 千絵
	ブレストC	ブレスト&イメージング先端医療センター附属クリニック	参事	小林 圭
	看護学校	看護専門学校教育	教務係長	大石美代子

定年のごあいさつ

本学での34年間

生化学(生化学)主任教授

加藤 智啓

定年退職にあたり

消化器・一般外科学主任教授

大坪 毅人

1991年に本学に入職し、長らく難病治療研究センターに勤務していましたが、2007年に生化学講座の教授・講座代表に就任しました。その後、2011年から3か年、大学院医学研究科長を、2014年から現在まで医学部長を務めています。元来リウマチ内科医であり、今まで30年以上、リウマチ科外来も担当させていただきました。そのような背景から、研究面ではリウマチ性疾患を対象とし、プロテオミクスを手法として研究を進めてきました。学生実習にもプロテオミクスの中心技術のひとつである質量分析を導入して、最新の分析技術を知っていました。教育面では、私の医学部長の時にCBTやOSCEなどの共用試験の精緻化、そして公的化などの評価制度の整備が進み、また、教育の質の継続的改善のための医学教育分野別評価の受審などがあり、さらに入学試験の多様化のため大学入学共通テスト利用選抜も設置されました。教学としてな

すべきことが年々増えている状況にあります。しかしながら、人的資源は限られていますので、現場が疲弊しないよう、必要性の低い業務の見直し、業務フローの単純化、重複度の高い委員会の統合など、効率化は必須の課題と考えます。学生カリキュラムも同様に、学生が医学の習得とともに幅広い人間性を身につけられるよう、日々の見直しを行い、効率性の高いものとしていく必要があると感じています。そうして、本学がこれからも建学の精神に則り、人類社会に奉仕しうる、そして、専門的研究の成果を人類の福祉に活かしていく医師を、一層力強く育成し、社会に輩出していくことを願ってやみません。皆様のおかげで34年間本学にて過ごすことができました。厚く御礼申し上げます。

私は、本学10回生として1986年3月に卒業しました。卒業後は東京女子医科大学消化器病センター外科で修練し、2004年10月より消化器外科で勤務させていただくことになりました。2005年4月には消化器外科と一般外科が統合されました。当時は腹腔鏡手術が実診療に導入されていました。年齢的には自分で習得することも考えましたが、後進を1日も早く育成するため腹腔鏡手術に精通した宮島伸宜先生、福永哲先生、國場幸均先生を招聘してご指導いただきました。私は肝胆膵外科の診療・教育に専念することができました。研究はリサーチカンファレンスを開催し全医局員が集い議論するようになりました。

病院のこととしては、2005年より中央手術部長を務めさせていただきました。2008年当時虎ノ門病院における医療崩壊を執筆された小松直樹先生のご指導もあり、バリアンス制度(現在はオカレンス制度)を導入

することができました。2014年からの3年間は副院長として主に初期臨床研修センターを、2017年から3年間は医療安全を担当させていただきました。2020年2月からは新型コロナ感染症との戦いが始まりました。同年4月からの3年間は病院長を拝命いたしましたが、ほとんどが新型コロナへの対応で明け暮れました。当院は教職員が一丸となって対応して頂いたおかげで本当に多くの重症患者を治療することができました。その後、2023年1月には新入院棟が開院し、2025年1月からは新外来棟で診療を始めることができました。振り返るとあっという間の20年間でしたが、ここまでやってこれたのは、医局員の皆さんをはじめ、全教職員のご協力のおかげであると心から感謝しております。本当にありがとうございました。今後もできる限り母校の発展のために尽くしてまいりたいと思います。

聖マリアンナ医大での15年間

生理学(細胞・器官生理)主任教授

船橋 利也

本当にお世話になりました

薬理学主任教授

松本 直樹

2010年4月1日に理事長より辞令を頂き、聖マリアンナ医大での教員生活がスタートいたしました。当時の教室代表でいらした明間先生のお計らいにより、事前に大学には何度も足を運んでいましたので、教室運営などには何の不安もありませんでしたが、やはり初日は身の引き締まる思いがいたしました。

初めの数年は、講義の準備や、研究のセットアップなどで忙しく過ぎ、その後は、わかりやすい講義を目指して毎年改良を重ねました。少しでも良い講義を届けたいと思ったのは、明間先生の静止膜電位の講義を拝聴したときのアカデミックな内容に感銘を受けたこと、そして、私自身が大学生時代に真剣に生理学を勉強しなかったことへの反省の念が原動力だったように思います。また、学生諸君から、時折、鋭い質問を受けることがあります、講義をする上で大変刺激になり、講義をする動機づけになりました。学生教育についていくつ

かの生理学の教科書を執筆、翻訳など微力ながらも、日本の生理学教育の一端は担えたのではないかという気がいたします。「素直」という良い気質を持った本校の学生の皆さんのが活躍をお祈りいたします。

研究に関しては、「餌の形状が海馬の担う高次機能に性差をもって影響する」ということを、電気生理学を中心として、行動科学や分子生物学を融合して明らかにできることは感謝の念でいっぱいです。

大学運営に関しては、教授会やカリキュラム委員会の末席に預かり、1学年代表として学生担当委員会に参加するなど、様々な経験をさせていただきました。

最後になりましたが、理事長をはじめとした理事会、歴代学長・医学部長、教授の皆さん、日頃、お世話になりました教育課や学務課の皆さんに心より感謝いたします。ありがとうございました。

私が初めて本学を訪れたのは1979年の早春、入試の下見でした。溝ノ口(片町)から非常に長い時間がかかったものの、最も心配だったバス便の経路と会場の確認を無事終了しました。往路は溝18系統で、帰路は発車直前だった溝16系統(清水台経由)に乗って私のマリアンナを印象づける経験をします。バスは来た方向とは違う向きに曲がります。どこに連れて行かれるんだろう、と思っていると、さらに大きな驚きと不安が襲います。後年発表された「となりのトトロ」の猫バスが通つてゆくような「トトロの森」に入って行くではないですか!帰宅出来ないかも、と本気で心配しました。

春、無事に入学を許可された私は遠方のマリアンナに自宅から1時間半以上かけて通いました。その後、気づいてみれば研修、留学、出張病院勤務の合計4年間を除き、42年間、菅生キャンパスに通いました。無事

に定年まで育てていただいたご恩の歴史は私の人生そのものです。「トトロの森」の道(蔵敷の交差点に続く道)は広い道路になり土地の雰囲気も大きく変わりました。もっと変わったのは本学で、国試合格率ショックが色濃く残る新設医大と言われた事は遠い過去になりました。「世間の評価より優秀な研修医だよね」と私も褒められましたが、今の学生さんはさらに優秀です。母校がどんどん成長して行く様子を、これ程長く目の当たりにさせていただけて本当に幸せでした。自身も成長させていただけた事に感謝の言葉も見つかりません。どうもありがとうございました。今後は外から応援する形になりますが、さらなる母校の発展を信じております。

 定年のごあいさつ 

退任のご挨拶～挑戦の10年～

整形外科学 主任教授
仁木 久照



退任のご挨拶

形成外科学 主任教授
梶川 明義



私は本学8回生で整形外科学講座の第4代主任教授を10年間務めました。無事退任を迎えることができましたのも皆様のおかげであり、厚く御礼申し上げる次第です。

教室作りのスローガンを「自己肯定感も含む Strong point を育くむ」とし人材育成と確保に注力しました。既存の診療班に加え外傷班を立ち上げ救命からの外傷患者に対応し、手術支援ロボットを導入し人工関節／脊椎センターを開設し集患に努めました。診療・研究体制が整備されると手術件数は年々過去最高を記録し、病床稼働率が100%超となることも稀ではなくなりました。令和4年11月には開講50周年記念式典を通常開催し、スローガンを「To the Next Stage～拓く力の育成と夢の実現～」として50年を振り返り、今後の50年の礎になる会になりました。

全国規模の学会は第51回日本関節病学会と第39回日本整形外科学会基

礎学術集会を担当しました。特に日本整会基礎の会長をいわゆる新設医大出身者が務めるのは史上初で、プログラムと運営面では様々な新たな取り組みに挑戦し、忘れ得ない思い出となりました。

任期後半はコロナ禍で教室運営の軌道修正を余儀なくされました。入院棟・外来棟への移転、電子カルテの変更、働き方改革導入による職場環境の激的な変化の中での人材確保の困難さにも直面しましたが、何とか乗り切りました。「挑戦」の10年でしたが、自分の仕事は「教室という畑を耕し人材という種をまくまで」と思い努力して参りました。いつか大きな花が咲くことを信じ、楽しみにして教室と大学の発展を見守りたいと思います。ここまでご支援、ご協力を頂戴しました全ての方々に心より御礼申し上げます。10年間、本当に有り難うございました。

私は2013年4月から本学形成外科学教室を主宰させていただきました。初代の荻野教授から数えて私は4代目の主任教授になりますが、4人とも専門分野が異なります。

形成外科には多くの分野があり、私も東京大学、福島県立医科大学で種々の形成外科手術を行って来ましたが、本学の教授になるにあたり特に要求されたのが乳房再建に関するスキルでした。聖マリアンナ医科大学は日本で最も多くの乳癌手術を行う大学です。乳房再建を希望する患者も多く、私は本学で1,000例を超える乳房再建を行い、第9回日本乳房オノコプラスティックサージャリー学会の会長も務めました。

私は自らの座右の銘でもある「自他相愛」の精神の下、患者を自分や自分の家族と同様という気持ちで、「再建したと分からぬ乳房再建」を目指して手術を行ってきました。そのために多くの新しい手術手技を開

発し、幸いにも新しい手術法は患者の高い評価を得て、再建希望の患者は年々増加しています。新しい手術手技の開発は私のライフワークでもあり、乳房再建以外の分野でも多くの手術手技を開発しました。その結果、第28回日本形成外科手術手技学会の会長、そして理事長も務めさせて頂きました。1人の外科医の命には限りがありますが、手術手技には永遠の命があります。私がメスを置いた後も、私の開発した手術手技は多くの形成外科医が引き継いで、たくさんの患者のために役立ててくれることでしょう。

幸いにも私の主任教授時代、多くの若者が形成外科を志して当教室に入局してくれました。彼らがこれから形成外科、そして聖マリアンナ医科大学で活躍してくれることを期待しています。12年間、ありがとうございました。

聖マリアンナ医科大学病院 本館閉館

～51年間ありがとう～
医療と研究、学びを支え、
地域とともに歩んだ建物に感謝をこめて

本年(2025年)3月1日、聖マリアンナ医科大学病院における診療・教育・研究の中核として機能していた「病院本館」が閉館しました。1974年2月12日の開院以来、多くの患者様やそのご家族から愛された施設でしたが、2023年1月1日に開院した入院棟、そして2025年1月6日に開院した外来棟・エントランス棟に全ての機能を移転し、その役割を終えました。今後は、最新の医療設備を完備したこれら新棟において、より一層安全・安心で質の高い医療の提供に努めてまいります。なお、「病院本館」解体後の跡地は、患者様の駐車場やバスロータリーとして活用されます。

閉館前の1カ月間、これまで多くの方々に愛されてきた施設にふさわしく、感謝とともに別れをしようと、「感謝の壁～Wall of Thanks～」を実施しました。このイベントには、患者様やご家族、地域住民や教職員など、1,000名を超える方が参加し、大盛況のうちに幕を閉じました。会場は、参加された方々からの感謝の気持ちや思い出などに包まれ、とても心温まる空間となりました。今後も、教職員一同、感謝の気持ちの溢れる病院運営を続けていきます。



感謝の壁～Wall of Thanks～
壁一面の感謝の言葉



大学病院祝別式

本館開院当時

1972年より着工した大学病院は1974年2月12日に開院し、高度な設備と機能を有し、学生の卒前・卒後教育も充実しました。

建物は特徴的な十字型で、中央に配置されたホールと4つのウイングを結ぶ設計でした。開院当時の病床数は850床、効率的で機能的な診療体制を実現し、患者さんにとっても過ごしやすい空間となるよう工夫されていました。



フロント



手術室

令和7年度 第55回 医学部医学科 入学式

自ら学ぶことを 継続できる医師に



応用できる医師を目指しました。専門医を取得後は海外で勤務し、日本人にはない考え方を学び、患者に接する思考回路が組み立てられました。昨年はインド、ラオス、タイなど複数の国の大手と協定を結び、学生とこれらの国で多くのことを学びました。本学が求められる学生は自ら学ぶことを継続できる医師です。

私は本学で毎日「トキメキ」を感じながら過ごし、小児外科医になり現役時代は終わりのない闘いの毎日でした。子供の命を救うため、また研鑽を積み、新たな術式に挑戦する。うねぼれずに学ぶことの重要性を教育されました」と、自身の経験を踏まえ述べた。

祝辞では、明石勝也理事長より、「創立50周年記念事業の一つである大学病院建て替え工事も順調に進み、入

4月5日(土)、医学部本館6階大講堂において、令和7年度第55回医学部入学式が執り行われ、参列した多くの保護者とともに、夢と希望に満ちた117名の入学を祝福した。

北川博昭学長は式辞の中で、「医学部は大学だけで社会に有益な人材を育てることは不可能です。私は学生時代にテニス部に所属し、毎日汗をかき、コミュニケーション力や集団的な人間の上下関係を学び、それが



院棟に次いで、外来棟、エントランス棟がオープンできました。これら新しい施設には最新のIT環境や最先端医療機器を備え、特定機能病院として、大学病院としてトップレベルの高度医療の実践と教育が行える豊かな環境が備わっています」と、菅生キャンパスのリニューアルに関する話に加え、「医師としての知識、技術、経験は一生をかけて身に付ける価値のあるものです。変革の時代であるからこそ、時代の先を読む意識も強く持ち、自らのキャリア形成に力を注いでください」と激励した。

岸忠宏聖医会会长からも、「もし悩み事や相談事がある時は気軽に聖医会事務局を訪ねてみてください。お手伝いできることがあれば全力で力になりたいと思っています」と心強い言葉とともに祝辞を送った。

次に稻垣郁哉さんが入学した喜びを述べるとともに、学則を守り学業に精励することを宣誓した。続いて在校生を代表して第4学年の阿波優

佑さんが歓迎の辞を贈った。最後に、小田武彦司祭(宗教学特任教授)の祈願、校歌斉唱が行われ閉式となり、117名の新入生は実りある6年間に向けての第一歩を踏み出した。

□■入学生喜びの声■□

支えて下さった方々への感謝を胸に

医学部 稲垣 郁哉

このたび、聖マリアンナ医科大学に入学できたことを大変光栄に思うとともに、これまで支えてくださった家族や先生方、友人に心より感謝申し上げます。学ぶ環境を整えてくださったすべての方々のご尽力に報いるためにも、6年間の学生生活に真摯な姿勢で臨みたいと考えております。今後は、医学的知識や技術を確実に修得するだけでなく、人としての在り方や患者への接し方も学び、思いやりのある医師を目指して努力を重ねてまいります。将来は地域や社会に貢献できる医師となるべく、日々の学びを大切にし、一歩一歩着実に成長していきたいと考えております。

令和7年度 第49回 看護専門学校 入学式

人類愛の本質が医療の原点に



式辞を述べる
鈴木昌子 校長

4月9日(水)、春の穏やかな陽気に包まれ、キャンパス内の桜が新たな門出を祝うように咲き誇る中、令和7年度看護専門学校入学式が執り行われた。

校歌斉唱に続いて、新入生95名一人ひとりの名前が読み上げられると、新入生たちは緊張と期待の入り混じった面持ちで立ち上がり、新たなスタートへの決意を固めた。続く式辞では、鈴木昌子校長が、「未曾有の災害と称された新型コロナウイルス感染症はメディアで大きく報道され、その中で苦悩する医療者たちの姿も広く取り上げられました。そのような厳しい世界を、皆さんは強い信念と意志をもって選

択されました。3年間で修める学問は3,000時間に及び、その課程は未来へ向かうチャレンジの連続です。もちろん、楽しいことや心に深く残る感動だけではなく、辛く苦しいこともあります。そんな時こそ、遠くに見える、看護師として活躍する自分の姿を見つめ、その時なすべきことを一つずつ実践してください。皆さんのが自分の夢の実現に向けて歩んでいる限り、周囲の方々は温かく見守ってくれるはずです。私たち教職員も、皆さんとの対話を大切にし、時に厳しく、時に優しく接しながら、皆さんの夢の実現を支援します。3年後、皆さんのが看護師として輝かしい一步を踏み出すことを祈っています」と述べた。

また、祝辞では明石勝也理事長が、1971年の本学創立時にローマ法王パウロ6世(当時)からカリスとパテ

ナを拝受した逸話とともに当時の本学に対する期待の大きさを紹介し、「隣人を自分のように愛することこそが人類愛の本質であり、医療の原点です。本学の建学の理念も、この精神に根差したもので、確かな知識や技術を学ぶとともに、本学でこそ身に付けられる建学の理念や豊かな心も育んでください。働き方改革が始まり、チーム医療が進歩する中につれて、看護師に求められる知識や技量は高まっています。職域や職能も拡大し続けており、生涯にわたる学習が求められるようになりました。本学には全ての学習に対応する環境が整っています。最新設備が備わった入院棟や外来棟・エントランス棟などの施設も完成しました。看護という素晴らしい分野を目指されたことを誇りに、心を尽くして研鑽を積んでください」と激励した。

その後、在校生による歓迎のことば、新入生による誓いのことばと続き、小田武彦司祭による新入生への祝福の祈りをもって、式は滞りなく閉幕した。

□■入学生喜びの声■□

看護学生としての自覚と責任をもって

看護専門学校 田中美笑優



看護師になるという夢を叶えるため、期待に胸を膨らませ入学式を迎えた。私は看護師になりたいという夢をもち、国際世界早産児DAYに開催されたイベントに参加し、子どもたちやご家族と交流しました。不自由なく生活できていることが当たり前ではないことを実感し、患者さん一人ひとりに合った看護を見つけQOL向上をサポートしていきたいと考えました。命の現場に携わることは決して簡単なことではないですが、やりがいを感じられる現場であると思います。専門的知識を学び技術を身につけ、看護学生としての自覚と責任を持ち、同じ看護の道を進む仲間と共に高め合いながら全力で邁進していくことを誓います。

◇◇令和7年度 入試結果報告◇◇

医学部

大学入学共通テスト利用選抜を新設

令和7年度医学部入学者選抜を下記のとおり実施いたしました。

■学校推薦型選抜

試験日 令和6年11月16日(土)
・一般公募制 募集人員 約20名
志願者数※ 83名(+17)
・神奈川県地域枠 募集人員 7名
志願者数※ 22名(+10)

■【新設】大学入学共通テスト利用選抜

1次試験日 令和7年1月18日(土)・19日(日)
2次試験日 令和7年3月14日(金)
募集人員 約5名
志願者数 519名

■一般選抜(前期)

1次試験日 令和7年2月6日(木)
2次試験日 令和7年2月15日(土)・16日(日)
募集人員 約75名
志願者数※ 3,104名(-106)

■一般選抜(後期)

1次試験日 令和7年3月6日(木)
2次試験日 令和7年3月14日(金)
募集人員 約10名
志願者数※ 1,606名(+89)
※()対前年増減

従来の「学校推薦型選抜」「一般選抜」に加え、「大学入学共通テスト利用選抜」を新設しました。新設の目的は、近年の入試制度改革や受験生を取り巻く環境の変化をふまえ、多様な選抜方法を提示し、受験生一人ひとりの適性や状況に応じた受験機会の提供を実現することでした。「大学入学共通テスト利用選抜」第1次試験の試験会場は昭和音楽大学(共同実施校)にて実施し、第2次試験は、一般選抜(後期)における第2次試験日に、本学にて実施しました。

結果、総志願者数は5,334名、過去最多の志願者数となりました。今後も優秀な学生確保のため、「オープンキャンパス」「進学相談会」をさらに充実させ、本学の魅力を積極的にアピールしていきます。あわせて、広報活動を強化し、情報発信の充実および支援体制の整備に努めてまいります。教学部入試課主査 青木恵美子

看護専門学校

社会人学士 12名、推薦 59名、 一般 24名の合計 95名が入学へ

令和7年度看護専門学校入学試験の結果は以下の通りです。

- 令和6年9月28日(土)
社会人・学士入学試験 入学者 12名
- 令和6年10月19日(土)
推薦入学試験 入学者 59名
- 令和6年11月9日(土)
一般入学試験Ⅰ期 入学者 13名
- 令和7年2月8日(土)
一般入学試験Ⅱ期 入学者 10名
- 令和7年2月22日(土)
一般入学試験Ⅲ期 入学者 1名

令和7年度は、他校の入試状況を綿密に調査した上で、本校の入試日程および試験科目の見直しを実施し、一般Ⅰ期を除くすべての入試において、小論文と面接のみの選考方法に改めました。加えて、受験生への訴求力を高めるための大幅な入試改革や、公式LINEの運用強化にも積極的に取り組んだ結果、オープンキャンパスの参加者数は大幅に増加し、同伴

者を含めて710名の参加を得ることができました。

本校は、オープンキャンパス参加者の受験率が70%以上と高水準であるため、オープンキャンパスにおいて本校の魅力を効果的に伝えることが、受験者数の増加につながりました。その結果、昨年度比27名増の95名が入学することになりました。

一方で、他校では定員割れが発生している例も見受けられ、少子化が一層進行する中、今後も決して気を緩めることなく、受験生確保に向けた取り組みに注力してまいります。今年度は、臨地実習における本校の優位性や教育の質に加え、SDGs活動をはじめとする本校独自の取り組みについても、ホームページや公式LINEを通じて積極的に発信し、より質の高い受験生の確保を目指してまいります。事務長 金本兼治

就任のあいさつ

「食事の化学」から 「分子標的治療」まで

生化学(生化学・化学)主任教授
鈴木(黒川)真奈絵



令和7年4月1日付けで生化学(生化学・化学)の主任教授を拝命致しました。多くの方々に支えていただいての就任となります。紙面をお借りしまして、心より感謝申し上げますと共に、謹んでご挨拶申し上げます。

生化学講座は昭和47年に開設され、初代教授として赤松暢先生が就任されました。その後、赤松先生の退任に伴い長谷川和夫学長が生化学教授を兼任され、次いで磯橋文秀先生、現医学部長の加藤智啓先生が就任され、私で5代目となります。当講座は生化学と化学の2分野を含み、医学部で両者の教育を担当しております。また大学院は、加藤智啓主任教授の就任時より「疾患プロトコーム・分子病態治療学」の名称に変更となり、疾患における蛋白質の網羅的解析と得られた結果の臨床応用を主軸とした研究を開催しております。

生化学は、化学構造式や化学反応を基本としたナノの世界の学問であるため、「難しい」「分かりにくい」などの印象をもたれやすいと思います。しかし、実は「食べたものがどのように体をつくり、エネルギーとなるか」の話なので、「食事の化学」と言うこともあります。学生の皆様には、生活の中で身近な「食」と密接に結びついていることから、是非親近感をもって生化学を勉強していただけたらと思います。

一方、医学においては近年多岐に渡る分子標的薬が開発され、これまで治療が困難であった疾患が次々と克服に向かっています。この分子標的薬を生み出す基盤となる「分子生物学」も、

生化学と密接した学問です。学生の皆様に分かりやすい「医化学」「分子生物学」をお伝えすると共に、病態を分子レベルで解析し、新しい検査・治療の開発に繋がる研究を展開していくことを考えております。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願ひ申し上げます。

略歴

平成4年3月 福島県立医科大学医学部医学科卒業
平成8年3月 福島県立医科大学医学部医学研究科修了
博士(医学)取得
平成8年4月 福島県立医科大学臨床検査医学講座診療医
平成9年7月 聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター助手
平成12年4月 聖マリアンナ医科大学リウマチ・膠原病・アレルギー内科助手
平成13年4月 北里研究所臨床薬理研究所研究員
平成15年4月 聖マリアンナ医科大学免疫学・病害動物学助手、後講師
平成20年4月 聖マリアンナ医科大学生化学講師、後准教授
平成26年4月 聖マリアンナ医科大学大学院疾患バイオマーカー・標的分子制御学指導准教授兼任
平成28年4月 聖マリアンナ医科大学大学院疾患バイオマーカー・標的分子制御学指導教授
令和7年4月 聖マリアンナ医科大学生化学主任教授

就任のご挨拶

消化器・一般外科学主任教授
民上 真也



令和7年4月1日付けで消化器・一般外科の主任教授を拝命いたしました。このたびの就任にあたり、謹んでご挨拶を申し上げます。主任教授の仕事を賜り、大変光栄に存じるとともに、その責任の重さに身の引き締まる思いです。

当講座は、昭和48年4月に外科学講座として「第1外科」「第2外科」が開講され、平成11年4月には臓器別編成により「消化器外科」として統合されました。平成12年4月に「消化器外科」と「一般外科」に再編成されましたが、平成16年10月に大坪毅人教授の就任とともに、現在の「消化器・一般外科」として新たな体制がスタートいたしました。

当科では、食道から直腸・肛門に至るまでの消化管疾患をはじめ、肝胆脾腎領域を含む幅広い消化器疾患を対応しており、腹部救急疾患から消化器悪性腫瘍まで多岐にわたる外科診療を行っております。近年では、開腹手術から腹腔鏡下手術やロボット支援手術など、技術革新が急速に進む中、私たち外科医にはこれらに柔軟に対応することが求められています。消化器癌に対する内視鏡外科手術や肝胆脾腎領域の悪性腫瘍に対する高難易度手術など、大学病院としての使命を果たすべく、高度かつ専門的な外科治療を提供するとともに、次世代を担う外科医の育成

にも力を注いでまいります。また、深刻化する外科医不足の中、「医師の働き方改革」を真摯に取り組み、若手医師にとって魅力ある医局づくりを目指してまいります。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。

略歴

平成4年3月 聖マリアンナ医科大学医学部医学科卒業
平成4年6月 聖マリアンナ医科大学病院研修医(第1外科)
平成6年4月 聖マリアンナ医科大学大学院医学研究科(臨床基礎医学系病理学(II)専攻)入学
平成10年3月 聖マリアンナ医科大学大学院博士課程修了、博士(医学)取得
平成12年4月 聖マリアンナ医科大学消化器外科助教
平成17年4月 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院消化器・一般外科 外科医長
平成20年4月 聖マリアンナ医科大学東横病院消化器病センター外科医長
平成22年10月 聖マリアンナ医科大学消化器・一般外科 講師
平成28年8月 聖マリアンナ医科大学消化器・一般外科 准教授
令和5年7月 聖マリアンナ医科大学消化器・一般外科 教授
令和7年4月 聖マリアンナ医科大学消化器・一般外科 主任教授

聖マリアンナと共に歩んだ道、 そしてこれから

薬理学主任教授
木田 圭亮



令和7年4月1日付けで薬理学主任教授を拝命いたしました。私は本学の25回生で、卒業後も医師4年目に西部病院へ1年間、そして海外留学の2年間を除き、この菅生の地で「ワン・クラブ・マン」として30年に亘り研鑽を積んできました。「ワン・クラブ・マン」とは、ひとつのクラブに長年所属し、現役を全うしたスポーツ選手のことで、私も同様に、学内外の素晴らしい仲間に支えられて、人生の半分以上を聖マリアンナ医科大学と共に歩んできたことは、私の誇りであり、深い感謝の念に堪えません。

平成30年に循環器内科から薬理学へ異動したことは、私にとって大きな挑戦でした。薬理学は学問としても医療の中核を担う基礎分野の一つでもあり、医師としての深みを与えてくれました。一方で、教育、研究、講座運営においては、現代の働き方及び今後の医療ニーズに合わせた変革と発展が不可欠だと考えています。今後は、垂直統合型教育の推進やデジタル技術を活用した次世代教育、トランスレーショナルリサーチの強化、AIや電子カルテを活用した薬物治療の最適化など、現代の医療ニーズに即した取り組みを一層発展させてまいります。また、基礎・臨床・企業との連携を通じて、多様性と持続可能性を兼ね備えた講座運営を目指します。学生・スタッフ・患者さんにとって、より良い学びと医療の環境を築くため、誠心誠意努めてまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

略歴

平成13年3月 聖マリアンナ医科大学医学部医学科卒業
平成13年5月 聖マリアンナ医科大学病院研修医
平成15年4月 聖マリアンナ医科大学大学院医学研究科 内科学(循環器内科)専攻 入学
平成19年3月 同大学院博士課程修了
平成19年4月 カリフォルニア大学サンディエゴ校 客員研究員
平成21年4月 聖マリアンナ医科大学循環器内科 助教
平成26年4月 聖マリアンナ医科大学循環器内科 講師
平成30年11月 聖マリアンナ医科大学薬理学准教授、循環器内科 顧問医兼務
令和2年4月 聖マリアンナ医科大学リハビリテーション科 顧問医兼務
令和7年4月 聖マリアンナ医科大学薬理学主任教授

新たな整形外科学講座が 目指すもの

整形外科学主任教授
原口 直樹



このたび整形外科学講座の主任教授を拝命しました、原口直樹です。西部病院で勤務を始めて7年が経過しましたが、この間多くの方々に助けて頂きました。本当に有り難うございました。

新たな整形外科が目指すのは「選ばれる整形外科」です。患者さんに選ばれる、他院の医師に選ばれる、そして学生や研修医に選ばれる、そのような整形外科です。より一層選んでもらうためには、当整形外科のさらなるブランド力の向上、すなわちマリアンナでしかできない高度の医療の実践とその広報が不可欠です。また困ったときに患者さんを受け入れてくれる安心感も欠かせません。

一方、そのような医療を持続的に行うためには多くの仲間が必要です。マリアンナ整形外科で腕を磨きたい、オリジナリティーのある研究をしてみたいと思ってもらえるよう、一層の努力をしてまいります。また昨今の若い世代の多様なニーズに対応できる柔軟性も必要でしょう。

当大学は2021年に創立50周年を迎え、新入院棟および新外来棟がオープン、次の100年に向かってまさに新たな出発点に立ったところです。その中で当講座5代目の主任教授を拝命致しましたが、過去の教授が築

略歴

平成3年3月 山形大学医学部医学科卒業
平成3年5月 東京警察病院レジデント
平成4年5月 公立昭和病院整形外科
および救急医学科研修医
平成15年4月 東京警察病院整形外科
医長
平成15年9月 米国Johns Hopkins大学
医学部整形外科生体力学
研究室研究員、同 Mercy
Medical Center,
Postgraduate Fellow兼務
平成26年7月 東京警察病院整形外科
部長
平成30年4月 聖マリアンナ医科大学
整形外科学病院教授
(横浜市西部病院)
令和2年4月 横浜市西部病院副院長
令和4年4月 横浜市西部病院病院長
令和7年4月 聖マリアンナ医科大学
整形外科主任教授

就任のあいさつ

就任のご挨拶

形成外科学 主任教授

松本 洋



このたび、令和7年4月1日付で聖マリアンナ医科大学形成外科学主任教授を拝命いたしました。ここに謹んでご挨拶申し上げます。

私の専門は、マイクロサージャリーを用いた各種再建手術です。これは、腫瘍の切除や外傷などにより生じた組織欠損に対して、身体各部から適切な再建組織を血管付きで採取し、欠損部に移植して顕微鏡下に血管吻合を行うことで、移植を完遂する技術です。移植可能な組織には皮膚、皮下脂肪、筋肉、骨、神経、腸管などがあり、欠損の状態に応じてこれらを組み合わせて移植することで、術後の機能および形態の維持・改善に大きく寄与することから、形成外科診療の中核を成す分野と位置づけられております。今後は、聖マリアンナ医科大学病院においても、マイクロサージャリーを活用した多様な再建手術を推進するとともに、診療科や職種の垣根を越えた多職種連携を実現し、患者のQOLの維持・向上に貢献することが、私の使命であると考えております。一方、形成外科を取り巻く環境には、いわゆる「直美(ちょくび:初期研修修了直後に美容診療に進む現象)」に象徴されるように、人材の流動化や定着率の低下といった課題も顕在化しております。マイクロサージャリーによる再建手術は、一般的に長時間の手術となりやすく、働き方改革の潮流とは相反するように捉えられることもございます。

しかしながら、私がこれまで培ってきた技術を効率的に後進へ継承し、役割分担を明確にすることで、患者中心の医療と良好な職場環境の両立、さらには病院経営への貢献も可能であると考えております。今後は、「患者」「医療スタッフ」「病院」の三者すべてにとって有益となる“三方よし”的理念のもと、教室運営に全力を尽くしてまいります。今後ともご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

略歴

平成14年3月 聖マリアンナ医科大学
医学部医学科 卒業
平成14年5月 岡山大学医学部附属病院
医員(形成外科)
平成15年5月 岡山済生会総合病院
医員(形成外科)
平成17年4月 岡山大学医学部・歯学部
附属病院 医員(形成外科)
平成18年4月 大阪市立総合医療センター
前期研究医(形成外科)
平成20年4月 岡山済生会総合病院
チーフレジデント(形成外科)
平成22年4月 岡山労災病院 医長
(形成外科)
平成23年4月 岡山大学病院 医員
(形成外科)
平成24年9月 岡山大学病院 特別契約
職員 助教(形成外科)
令和3年4月 岡山大学医歯薬学域
助教(形成再建外科学)
令和4年4月 岡山大学医歯薬学域
講師(形成再建外科学)
令和7年4月 聖マリアンナ医科大学
形成外科学講座 主任教授

横浜市西部病院長に就任して

西部病院 病院長

明石 嘉浩



令和7年4月1日付けで横浜市西部病院の病院長を拝命いたしました。ここに謹んでご挨拶申し上げます。

20年前、自身が西部病院勤務時代の横浜市における高齢化率は17.0%、当時旭区は20%を超える高齢化率でありました。2023年1月時点では、横浜市における老人人口比率は25.4%に達しており、西部病院が位置する旭区は30.5%、また診療圏である瀬谷区は29.0%と、いずれも非常に高い割合を占め、しかも年々増加しています。この地域特性を十分に理解し、病院の運営方針を検討していく必要があります。

赴任後、西部病院のスローガンを「安心と信頼の医療を届ける」と定めました。地域の皆さまが求める医療を提供し、当院が選ばれる病院となるよう努め、患者さんの期待に応えることで地域社会全体からの信頼を築いていきたいと考えています。また、大学附属病院としての誇りを持ち、安全で安心できる医療の提供を積み重ねていくことが、私たちの使命であると認識しています。この取り組みが西部病院のブランド力を高め、職員一人ひとりが『より良い医療を提供するために何ができるか』を自発的に考えて行動することにつながります。病院全体が一丸となって取り組むことで、スローガンの実現へと着実に前進できると確信しています。

私たちの病院の価値をさらに高め

るとともに、すべての職員が『この病院で働いて良かった』と誇れる環境を築くため、エンゲージメントを深めてまいります。皆さまの変わらぬご支援を、心よりお願い申し上げます。

略歴

平成8年3月 聖マリアンナ医科大学
医学部 卒業
平成8年4月 都立広尾病院 レジデント
平成14年3月 聖マリアンナ医科大学
内科学院 卒業
平成14年4月 都立広尾病院 循環器科
勤務
平成15年4月 聖マリアンナ医科大学
横浜市西部病院
循環器内科 勤務
平成17年4月 ドイツ Center for
Cardiovascular Research,
Charité -
Universitätsmedizin Berlin
留学
平成19年4月 聖マリアンナ医科大学
内科学(循環器内科学) 助教
平成20年12月 同、講師
平成22年10月 同、准教授、循環器内科
診療副部長
平成25年4月 同、教授、循環器内科
診療部長
令和2年4月 同大学病院 副院長
令和5年4月 (講座名変更により)
同大学 循環器内科学
主任教授
令和7年4月 同大学横浜市西部病院
病院長、現在に至る

◆ 令和6年度 国家試験結果報告 ◆

医学部

102名の医師が誕生

国試委員会委員長 長田尚彦

2025年2月8日(土)、9日(日)に行われた第119回医師国家試験は3月14日に結果発表され、本学卒業生は102名(新卒99名、既卒3名)が合格しました。合格率は全体では90.3%(全国平均92.3%)と受験生は非常に頑張ってくれました。現役合格率90.0%は少し低めでしたが、今年度も既卒学生諸君の合格率100%の頑張りは顕著でした。

国試全体の点数はやや低下しており、一般臨床問題の合格基準は221点以上(昨年は230点以上)とボーダーラインが昨年より9点低下していました。この学年は1年生の時はコロナ禍で入学してきており、6年間は大変難しい時間を過ごした学年であったと思っています。そのため多くの事が手探り状態で行ってきており、コロナ禍の臨床実習下で国試試験準備は大変であったと思います。また文部科学省から発表されている大学別医学部の6年間ストレート卒業率では、全国大学の平均値は約80%前後であるのに対して、本学のストレー

ト卒業率は高い値を維持しています。そして今回も6年間ストレートに進級した学生は比較的高い合格率を示しています。

ただ残念ながら国家試験合格率でみると昨年よりは全体的にはやや厳しい結果であったことも事実であり、来年は昨年と同様の合格率まで回復させるため国家試験委員会で新たな施策を行っていく予定であります。特に卒業試験終了後にこの学年は明らかな油断が見られ、全体的に緩んだ雰囲気になってしまった印象が強くあったので、同様なことが来年の国家試験前には起きにくい状況にしたいと思案中であります。

長い臨床実習期間に並行しての国家試験対策に第6学年学生諸君は頑張っております。第6学年担当教員の皆様には引き続きご指導いただきますようお願いいたします。また、本学、および関係する全ての皆様にも厳しくも温かい御指導を今後も変わらず賜りますよう重ねてお願ひいたします。

看護専門学校

76名の看護師が誕生

46回生3年生国試・学習支援担当
田中良和

2025年2月16日(日)に行われた第114回看護師国家試験の結果が、3月24日(月)に発表されました。全国の受験者数は63,131名であり、合格者は56,906名でした。当校からは卒業した46回生72名と既卒者6名の計78名が受験し、77名が無事に合格することができました。残念ながら全員の合格は叶いませんでしたが、当校の合格率は98.7%であり、全国の合格率90.1%と比較しても高い合格率となりました。

46回生は2022年度に行われた看護師養成所のカリキュラム改正後、3年間を新カリキュラムで履修した初めての国家試験受験生となりました。新カリキュラムでは看護学校の3年間で103単位(2,985時間)を履修します。基礎分野や専門基礎分野、そして専門分野と、看護学校の3年間で学ぶ範囲は多岐にわたります。また、カリキュラムのうち3分の1が臨地実習を占めており、3年次は半年以上に及ぶ期間にわたって大学病院や関連病院、訪問看護ステーション

や地域の施設等で実践に即した実習を行います。このような過密なスケジュールのなか、46回生は国家試験合格に向けた学習に一生懸命に取り組み、最後まで粘り強く努力していました。その結果がこの国家試験合格であったと思います。

昨今、医療業界にも働き方改革が求められており、看護職が担う役目も変化してきています。このような時代の変化にも柔軟に対応できる看護師として、これからも成長し続けてほしいと願っています。末筆ではございますが、引き続き皆様の温かいご指導を賜りますよう何卒よろしくお願いいたします。

令和6(2024)年度 厚生労働科学研究費補助金 交付決定者一覧

令和7年3月31日現在

所属	職位	氏名	代表・他	交付額(円) :直接経費	研究課題名	所属	職位	氏名	代表・他	交付額(円) :直接経費	研究課題名
本部	理事	川瀬 弘一	代表	2,350,000	International Classification of Health Interventions (ICHI) の国内普及の更なる促進に資する研究	小児科学	講師	長江 千愛	分担	2,000,000	非加熱血液凝固因子製剤による HIV 感染血友病等患者の長期療養体制の構築に関する患者参加型研究
免疫学・病害動物学	特任教授	清水 潤	代表	3,760,000	再発性多発軟骨炎の診断と治療体系の確立	脳神経外科学	教 授	太組 一朗	分担	900,000	ブリオノ病のサービスインスと感染予防に関する調査研究
脳神経内科学	主任教授	山野 嘉久	代表	12,308,000	HAMならびに類縁疾患の患者レジストリによる診療連携体制および相談機能の強化と診療ガイドラインの改訂	放射線診断・IVR 学	主任教授	三村 秀文	分担	700,000	難治性血管腫・脈管奇形・血管奇形・リンパ管奇形(リンパ管腫)・リンパ管腫症および関連疾患についての調査研究
血液・腫瘍内科学	主任教授	新井 文子	代表	2,690,000	慢性活動性EBウイルス病と類縁疾患のレジストリ・バイオバンク運用体制の拡充と診療連携基盤の確立	産婦人科学	主任教授	鈴木 直	分担	200,000	小児・AYA世代のがん経験者の健康アウトカムの改善および根治困難ながんと診断されたAYA世代の患者・家族の生活の質向上に資する研究
血液・腫瘍内科学	特任教授	渡邊 俊樹	代表	3,850,000	HTLV-1 総合対策進捗の現状把握と「普及・啓発・相談対応」の改善・強化のための課題把握とその解決策の検討	リハビリテーション医学	主任教授	佐々木信幸	分担	400,000	生活意期リハビリテーションにおける介入手法の標準コードの開発研究
脳神経外科学	教 授	太組 一朗	代表	15,043,000	カンナビノイド医薬品とカンナビノイド製品の薬事監視	救急医学	主任教授	藤谷 茂樹	分担	100,000	臨床検査技師、臨床工学技士、診療放射線技師のタスクシフティング/タスクシェアリングの安全性と有効性評価
産婦人科学	主任教授	鈴木 直	代表	15,380,000	小児・AYA世代がん患者に対するがん・生殖医療における心理社会的支援体制の構築と安全な長期検体保管体制の構築を目指した研究—サバイバーシップ向上を志向して	難病治療研究センター	研究員	丹澤 和雅	分担	200,000	アミロイドーシスに関する調査研究
産婦人科学	主任教授	鈴木 直	代表	2,530,000	小児・AYA世代のがん患者等に対する妊娠性温存療法のエビデンス確立を目指した研究—安全性と有効性の創出を目指して	難病治療研究センター	准教授	田辺健一郎	分担	200,000	HAMならびに類縁疾患の患者レジストリによる診療連携体制および相談機能の強化と診療ガイドラインの改訂
予防医学	講 師	本橋 隆子	分担	500,000	医療関係職種の生涯活躍できる環境の整備のための研究	代謝・内分泌内科学	主任教授	曾根 正勝	分担	200,000	
予防医学	講 師	奥田 裕子	分担	100,000	小児四肢疼痛発作症の就学・就労支援マニュアルの作成のための調査研究	予防医学	主任教授	高田 礼子	分担	200,000	
臨床検査医学・遺伝解析学	教 授	右田 王介	分担	240,000	ライソーム病、ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを含む)における早期診断・早期治療を可能とする診療提供体制の確立に関する研究	リハビリテーション医学	主任教授	佐々木信幸	分担	200,000	
代謝・内分泌内科学	主任教授	曾根 正勝	分担	400,000	副腎ホルモン産生異常にに関する調査研究	産婦人科学	講 師	洞下 由記	分担	200,000	小児・AYA世代がん患者に対するがん・生殖医療における心理社会的支援体制の構築と安全な長期検体保管体制の構築を目指した研究—サバイバーシップ向上を志向して
代謝・内分泌内科学	教 授	方波見卓行	分担	400,000		産婦人科学	講 師	久慈 志保	分担	200,000	
脳神経内科学	主任教授	山野 嘉久	分担	3,500,000	革新的技術を用いた難病の医療提供体制推進に関する研究	産婦人科学	助 教	中村健太郎	分担	200,000	
脳神経内科学	教 授	秋山 久尚	分担	1,930,000	見えづらさを来す様々な疾患の障害認定・支援の方法等の確立に向けた研究	乳腺・内分泌外科学	主任教授	津川浩一郎	分担	200,000	
リウマチ・膠原病・アレルギー内科学	主任教授	川畑 仁人	分担	200,000	自己免疫疾患に関する調査研究	産婦人科学	助 教	西岡美喜子	分担	100,000	
リウマチ・膠原病・アレルギー内科学	主任教授	川畑 仁人	分担	100,000	介護・福祉・在宅医療現場における関節リウマチ患者支援に関する研究	眼科学	助 教	北岡 康史	分担	150,000	先天性および若年性の視覚聴覚二重障害の難病に対する医療と支援に関する研究
リウマチ・膠原病・アレルギー内科学	特任准教授	永済 裕子	分担	200,000	ペーチェット病に関する調査研究	耳鼻咽喉科学	主任教授	小森 学	分担	150,000	

令和6(2024)年度 文部科学省・(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業 交付決定者一覧

令和7年3月31日現在

研究種目	所属	職位	氏名	交付額(円) :直接経費	研究課題名	研究種目	所属	職位	氏名	交付額(円) :直接経費	研究課題名
基礎研究(B)	救急医学	非常勤講師	齋藤 浩輝	0	ウガンダでの感染管理促進に関するクラスタークレンドム比較試験 / 質的・インパクト評価	基礎研究(C)	リウマチ・膠原病・アレルギー内科学	主任教授	川畑 仁人	1,200,000	S100A6 阻害併用造血幹細胞移植法の確立
	消化器内科学	主任教授	立石 敬介	4,500,000	クロマチン立体構造からの細胞系譜解析を用いた膀胱新規分子標的の同定と検証		膠原病合併質性肺炎の免疫病態を反映する上皮アボトーシス由来バイオマーカーの確立				
	脳神経内科学	主任教授	山野 嘉久	3,900,000	HAMのシングルセル遺伝子発現解析による疾患特異的な免疫異常発現機構の解明		小児科学	教 授	川口 敦	200,000	横隔膜呼吸筋の電気活動を中心とした多角的評価法の確立
	産婦人科学	主任教授	鈴木 直	4,700,000	新規技術や臨床応用されていないがん・生殖医療領域の技術革新を志向した技術開発研究		小児科学	教 授	麻生健太郎	700,000	新生児診療支援システムを用いた診療・特定認定看護師の臨床論理の向上に関する研究
	応用分子腫瘍学	大学院教授	太田 智彦	4,700,000	乳がんのDNA損傷修復とcGASSTING経路を制御するシグナル伝達系の解析		小児科学	准教授	勝田 友博	500,000	フォンタン術後の遠隔期合併症発症予防にEMSを用いたリハビリテーションは有効か?
	バイオインフォマティクス学	大学院教授	山本 博幸	3,200,000	人工知能・新型ゲノムデータ駆動型アプローチに基づく革新的胃癌統合治療の創成		小児科学	講 師	山下 敦己	1,400,000	10歳代に対するB型肝炎ワクチンにおける接種方法別の安全性の比較
基礎研究(C)	解剖学	主任教授	池森 敦子	800,000	習慣的有酸素運動による加齢腎の進行予防メカニズムの解明・筋腎連関の可能性		心臓血管外科学	助 教	加藤 匡人	1,000,000	血友病治療における凝固第VII因子の血管外分布機構の解明と新規出血抑制作用の解析
	解剖学	講 師	五十嵐潤子	1,000,000	骨髄におけるメラトニンの作用とその意義の解明		呼吸器外科学	主任教授	繩田 寛	400,000	膜型人工肺における血栓評価と薬剤治療の役割
	解剖学	助 教	井上 一歩	1,600,000	骨格筋の毛細血管内皮細胞と周皮細胞のクロストークによるサルコベニア予防法の確立		呼吸器外科学	教 授	小島 宏司	1,300,000	心臓血管外科学データベースの国際比較と手術リスクモデルの構築
	生理学	主任教授	幸田 和久	1,000,000	デルタ2グレルタミン酸受容体の構造的及び代謝活性のシグナル伝達機構の解明		呼吸器外科学	准教授	本間 崇浩	600,000	免疫抑制剤を用いた再生気管の研究
	生理学	講 師	井端 啓二	1,300,000	オートファジーによるシナプス形成調節機構の解明		呼吸器外科学	研究員	泰彦	500,000	帶電性ナノバブルによる胸膜播種抑制効果の研究
	生理学	講 師	萩原 裕子	1,900,000	慢性疼痛における分界条索核外側部CRHニューロンの可塑的变化と性差に関する研究		小児外科学	非常勤講師	新開 統子	1,000,000	10歳代に対するB型肝炎ワクチンにおける接種方法別の安全性の比較
	生理学	講 師	藤岡 仁美	1,800,000	小脳による視床下部・下垂体・副腎軸の制御機構の解明		脳神経外科学	准教授	伊藤 英道	700,000	横隔膜呼吸筋の電気活動を中心とした多角的評価法の確立
	生理学	講 師	黒坂 光寿	1,500,000	IL-13セグナリングによる筋幹細胞融合の制御機構の解明とその応用		整形外科学	教 授	原口 直樹	1,000,000	15歳代に対するB型肝炎ワクチンにおける接種方法別の安全性の比較
	生理学	講 師	藤原 清悦	1,900,000	小脳への經頭蓋直刺流を利用するうつ病治療の基盤構築		整形外科学	准教授	山本 豪明	1,000,000	脛骨外膜合併症に対する新規治療法の確立
	生理学	研究技術員	掛橋 千彰	500,000	ケトン食摂取による運動模倣効果の解明		形成外科学	主任教授	梶川 明義	300,000	股関節軟骨と寛骨白関節唇における力学ストレス応答の分子機序と、関節変性との関連
	生理学	研究技術員	加藤 智啓	700,000	Laylinを中心とした関節リウマチの滑膜増殖機構の解明		皮膚科学	主任教授	門野 岳史	1,100,000	自家培養表皮移植による乳頭乳輪の色調調節
	生化学	主任教授	佐藤 利行	1,300,000	顕微鏡的多発血管炎の臨床検査適用を目的とした、血清AC13濃度測定系の確立		皮膚科学	准教授	宮垣 朝光	1,200,000	各種MEK阻害薬の抗PD-1抗体併用時における悪性黑色腫腫瘍免疫への効果
	生化学	准教授	飯利 太朗	1,100,000	GPCR/Gタンパク質の分子メカニズムの詳細解明と創薬応用		腎泌尿器外科学	教 授	中澤 龍斗	900,000	皮膚リンパ腫の包括的病態解析と新規治療戦略の開拓
	生化学	准教授	木田 圭亮	600,000	腫瘍循環器リハビリテーションのQOLに着目した効果の検証		腎泌尿器外科学	教 授	篠田 和伸	800,000	尿路感染症に特異的なエクソソームを検出する高感度迅速検査法による鑑別診断の試み
	免疫学・病害動物学	主任教授	宮部 斎重	1,100,000	CNSループ病における免疫細胞の遊走制御機構の解明		腎泌尿器外科学	客員教授	丸井 祐二	1,000,000	形質細胞様樹状細胞に着目した腎自発免疫寛容の解明—ヒト腎免疫寛容誘導への治療戦略
	免疫学・病害動物学	特任教授	清水 潤	900,000	ペーチェット病におけるIgA結合型腸内細菌を利用した治療反応性および予後予測		産婦人科学	教 授	高江 正道	1,000,000	運動習慣獲得による腎移植患者のQOL向上を目的とした運動促進プログラムの構築
	免疫学・病害動物学	准教授	有光なぎさ	1,000,000	機能的血管を有する3次元神経組織による中枢神経疾患への治療応用		産婦人科学	助 教	西村 陽子	900,000	子宮内膜を標的とした非侵襲的卵巣組織異所性移植法の開発
	免疫学・病害動物学	研究技術員	廣津千恵子	1,000,000	中枢						

令和6(2024)年度 文部科学省・(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業 交付決定者一覧 令和7年3月31日現在

所属	職位	氏名	交付額(円) :直接経費	研究課題名	所属	職位	氏名	交付額(円) :直接経費	研究課題名	
基礎研究C 予防医学	医療情報処理技術応用研究分野 周産期発生病態解明学	大学院教授 大学院教授	小林 泰之 長谷川潤一	1,700,000 1,200,000	細胞の同定—疾患特異的根治療法に向けて—眼底写真・OCT検査両者を活用した人工知能による全身疾患の早期発見ツールの開発 子宫内の臍帯異常に起因する胎盤性の発症予知と予防に関する研究	脳神経外科学 整形外科学 整形外科学 整形外科学 腎泌尿器外科学 産婦人科学 産婦人科学 眼科学 眼科学 放射線診断・IVR学 放射線診断・IVR学 放射線治療学 麻酔学 救急医学 臨床腫瘍学 先端生体画像情報研究講座	研究員 助教 助教 助教 講師 講師 講師 講師 助教 講師 講師 講師 助教 助教 講師 特任助教	善積 哲也 熊井 隆智 染村 嵩 寺内 昂 早川 望 久慈 志保 中村健太郎 佐瀬 佳奈 塚原 千広 富田 隼人 橋本 一樹 岡田 幸法 浜辺 宏介 田北 無門 新井 裕之 原口 貴史 大坪 莞爾 中村 謙伸	600,000 800,000 1,100,000 800,000 1,100,000 2,300,000 1,400,000 700,000 1,100,000 2,700,000 1,300,000 300,000 300,000 1,100,000 1,700,000 1,100,000 1,100,000	圧迫性脊髄症治療における膜透過性神経分化誘導ペプチドと脂肪組織由来幹細胞の有用性 運動源として人工筋肉を装備する生体適合性人工骨・軟骨一体型バイオマテリアルの創製 骨芽細胞におけるエネルギー代謝調節因子を介する力学的ストレス応答と、骨形成の制御 生理的・病的荷重ストレスに応答する軟骨核酸修復・エネルギー代謝の解析と、治療応用 Nitazoxanideを中心とした多剤併用による膀胱癌の新たな治療戦略の確立 婦人科悪性腫瘍における長期維持療法中の経済性とストレス反応 新規抗がん薬による卵巣毒性の機序解明と卵巣保護に関する研究 p62を中心とした視神経軸索障害におけるオートファジーと抗酸化経路の相互機構解明 NFATc阻害剤の視神経軸索保護効果とその分子の機序の解明 頭頸部瘤の再発・予後予測に関するAI画像診断支援システムの開発 ヨード造影剤ゼロで行う副腎静脈サンプリング法の確立 小細胞肺癌における代謝の変化と画像診断、放射線治療との関係 動作分析ソフトを用いた臨床現場での気管挿管操作時の動作解析 透析用カテーテルを用いた低流量体外循環により呼吸性アシドーシスを改善せ得るか 大腸がんにおけるCDC37遺伝子発見とレゴラフェニブ感受性の関連を検討する基礎研究 AIによるCT臓器年齢予測および健康指標アルゴリズム開発 瘢痕性気管狭窄に対する鼻粘膜由来間葉系幹細胞シート移植による狭窄抑制機序の検討 人骨の分析に基づく前近代の日本列島における妊娠・出産に関する研究
微生物学 免疫学・病害動物学 臨床検査医学・遺伝解析学	講師 助教 講師	大神田 敬 大橋 彩香 尾堀佐知子	700,000 600,000 1,500,000	カルバメーマーゼ產生菌感染症に対する翻訳的抗生薬併用療法の開発 慢性活動性Epstein-Barrウイルス新規治療標的分子の同定と治療薬開発 ロングリードショーケンスを用いた染色体構造異常解析による新規疾患遺伝子探索	臨床検査医学・遺伝解析学	助教	久道三佳子	100,000	かかりつけ医から腎臓専門医に紹介すべき尿定性検査解釈の検討—尿比重の有用性	
総合診療内科学	助教	片山 皓太	1,600,000	医学生の臨床実習における診療参加が基本的診療能力の涵養を促すかの検証研究	循環器内科学	講師	貝原 俊樹	3,500,000	スマートフォンのエミフィケーションアプリを用いた在宅心臓リハビリテーション研究	
循環器内科学 消化器内科学	講師 助教	桑田 真吾 加藤 正樹	1,000,000 1,400,000	二次性三次弁閉鎖不全症における負荷心エコー検査の有用性 炎症性腸疾患の新規バイオマーカー・病態関連候補血清ペプチドの網羅的解析	腎臓・高血圧内科学	助教	渡邊 詩香	1,400,000	運動とSGLT2阻害薬による筋肉連関を介した糖尿病性腎臓病の進行予防メカニズムの解明	
血液・腫瘍内科学	助教	上村 悠	1,100,000	サイトカインプロファイルリングに注目したCAEBVの病態解明と治療法の開発	小児科学	准教授	三浦 慎也	1,700,000	空気力学を考慮した人工呼吸小児モデルにおける気管支拡張薬の吸入効率の体系的検証	
小児科学 呼吸器外科学 小児外科学	非常勤講師 助教 助教	今泉 太一 木村 祐之 大林 樹真	500,000 1,000,000 1,200,000	機械学習を用いた新生児自発運動評価法の開発 ウサギの鼻中隔軟骨を用いた再生気管の研究 小児気管軟化症に対する脂肪組織由来再生細胞を用いた気管軟骨再生療法の開発						

令和6(2024)年度 国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託研究開発費 交付決定者一覧 令和7年3月31日現在

所属	職位	氏名	俵・旭	交付額(円) :直接経費	研究開発課題名	所属	職位	氏名	俵・旭	交付額(円) :直接経費	研究開発課題名
脳神経内科学	主任教授	山野 嘉久	代表	8,400,000	HAM・HTLV-1陽性難治性疾患の患者レジストリを活用したエビデンス創出研究	血液・腫瘍内科学	主任教授	渡邊 俊樹	分担	20,000,000	難病の病態解明と創薬に向けた持続可能な難病プラットフォーム活用体制の確立
血液・腫瘍内科学	主任教授	新井 文子	代表	4,750,000	診療ガイドライン掲載のためのエビデンス創出を目指した慢性活動性EBウイルス感染症とその類縁疾患のレジストリ強化・病態解釈・治療法の開発	脳神経内科学	講師 研究員 主任教授	八木下尚子 丹澤 和雅	分担 分担	12,000,000	ロングリードシーケンスとiPS細胞技術で解明明かす、リピート構造異常に起因する骨格筋疾患の発症機構
リウマチ・膠原病・アレルギー内科学	教 授	新井 文子	代表	4,000,000	新規核酸医薬を用いた難治性血液疾患の病態解明	難病治療研究センター	講師 研究員 主任教授	三橋 里美	分担	7,000,000	希少難病に対するN-of-1+核酸医薬創薬研究
		森 雅亮	代表	3,445,000	関節リウマチ(RA)大規模データベースを用いた、移行期・AYA世代および妊娠期RA患者における疾患特性の異同を内包するライフケーストージの課題抽出とその解決に資する研究	血液・腫瘍内科学	主任教授	安井 寛	分担	1,000,000	輸注後CAR-T細胞の量・機能的評価と微小残存病変の評価を利用した移植タイミングの最適化
小児科学	教 授	森 雅亮	代表	50,323,000	大量ガンマグロブリン不応を呈する川崎病を対象としたアナキンラ多施設共同医師主導治験(探索試験)に関する研究開発	神経精神科学	主任教授	川畠 仁人	分担	200,000	免疫担当細胞eQTLデータを用いた免疫介在性疾患ゲノム情報から層別化および予後予測モデルの構築
神経精神科学	教 授	川口 敦	代表	25,133,000	適応反応症(適応障害)に対する認知行動療法の効果検証:多施設共同ランダム化比較試験	小児科学	教 授	森 雅亮	分担	500,000	全身型若年性特発性闘姦炎に対する診断率向上および治療効果、予後予測指標の確立を目指したエビデンス創出研究
麻酔学 薬理学	講師 准教授	升森 泰 木田 圭亮	代表 分担	4,756,364 800,000	AI技術を活用した自動気管挿管装置の開発研究	神経精神科学	助教 教 授	永済 裕子	分担	200,000	予後予測指標の確立を目指したエビデンス創出研究
		木田 圭亮	分担	200,000	慢性心不全の薬物治療を最適化するための指先血測定用カリウムイオンセンサの実用化研究	小児科学	教 授	櫻井 恵一	分担	100,000	レジストリを用いたペチエット病の予後不良型発症予防のためのtreat-to-target開発
		木田 圭亮	分担	480,000	日本循環器研究コンソーシアムによる難治性心血管疾患のエビデンス創出	呼吸器外科学	主任教授	中川 敦夫	分担	2,000,000	早期闘姦リウマチの滑膜と末梢血情報による予後予測モデルの構築
脳神経内科学	主任教授	山野 嘉久	分担	500,000	難病のゲノム医療実現に向けた全ゲノム解析の実施基盤の構築と実践	小児科学	准教授	北東 功	分担	946,000	医療情報を統合したうつ病の治療最適化に資するシステムの開発
		山野 嘉久	分担	1,000,000	自己免疫性GFAPアストロサイトバーチの実態解明と治療法確立を目的としたエビデンス創出研究	呼吸器外科学	主任教授	佐治 久	分担	100,000	医療情報を統合したうつ病の治療最適化に資するシステムの開発
		山野 嘉久	分担	10,800,000	患者レジストリを活用した沖縄型神経原性筋萎縮症のエビデンス創出研究	産婦人科学	主任教授	西村 俊秀	分担	2,000,000	開発途上国における新生児死亡の改善に対応する新生児のための診療支援システムの医療機器の開発
		山野 嘉久	分担	5,000,000	難病のゲノム医療実現に向けた全ゲノム解析の実施基盤の構築と実践	耳鼻咽喉科学	主任教授	鈴木 直	分担	100,000	全身型若年性特発性闘姦炎に対する診断率向上および治療効果、予後予測指標の確立を目指したエビデンス創出研究
		山野 嘉久	分担	16,550,000	アグレッシャン成人T細胞白血病リンパ腫を対象とした全国一元化レジストリ・バイオレポジトリ研究	放射線治療学	主任教授	小森 学	分担	300,000	医療情報を統合したうつ病の治療最適化に資するシステムの開発
		山野 嘉久	分担	5,000,000	統合オミックス解析による多因子型難病の発症機構の解明と創薬シーズの導出	臨床腫瘍学	主任教授	中村 直樹	分担	300,000	医療情報を統合したうつ病の治療最適化に資するシステムの開発
		山野 嘉久	分担	1,000,000	多分野融合研究によるHTLV-1感染症のウイルス感染病態全容解明	感染症学	主任教授	砂川 優	分担	1,500,000	直腸癌治療に対する標準治療確立のための研究開発
血液・腫瘍内科学	主任教授	山野 嘉久	分担	800,000	POEMS症候群の全国調査とレジストリ構築:リアルタイムなエビデンス創出とガイドラインへの反映			國島 広之	分担	2,000,000	直腸癌治療に対する標準治療確立のための研究開発
脳神経内科学	主任教授	渡邊 俊樹	分担	1,400,000	HTLV-1水平感染の動向と検査法・検査体制の整備					400,000	直腸癌治療に対する標準治療確立のための研究開発
		山野 嘉久	分担	10,500,000	ゲノム情報を基盤としたHTLV-1感染症の病態形成機序の解明及び発症リスク予知アルゴリズム開発に関する総合的研究						

令和5(2023)年度 公的・民間助成金(競争的獲得資金)獲得状況一覧

所属	職位	氏名	助成機関名	助成事業名	研究課題名	金額(単位:千円)
生化学	助教	土屋 貴大	公益信託日本動脈硬化予防研究基金	令和5年度研究助成	ライリンによるLDL受容体調節機構の解明	1,000
小児科学	准教授	三浦 慎也	医療経済研究機構	2023年度(第27回)研究助成	ライリンを標的とした脂質異常症治療薬の開発	994
解剖学	助教	井上 一歩	中富健康科学振興財団	令和5年度(第36回)研究助成金	重篤小児患者発生数の算出法の開発—小児救命医療体制の適正化に向けて	1,500
呼吸器外科学	主任教授	佐治 久	後藤喜代子・ポールブルダリ基金協会	後藤喜代子・ポールブルダリ科学賞	運動による筋肉連関を介した腎臓老化の制御機構の解明	3,000
免疫学・病害動物学	主任教授 主任教授	宮部 齊重	(公財)持田記念医学薬学振興 (一社)日本リウマチ学会	2023年度 持田記念研究助成 JCRフロンティア研究者助成プログラム2023	Segmentectomy versus lobectomy in small-sized peripheral non-small-cell lung cancer (JC0G0802/WJOG4607L): a multicentre, open-label, phase 3, randomised, controlled, non-inferiority trial (Lancet. 2022 Apr 23;399(10335):1607-1617)	3,000
総合診療内科学	助教 助教	片山 皓太 奥野 泰史	(一社)日本病院総合診療医 (一財)朝日インテック・宮田尚彦 医療技術支援財団	研究助成金 研究助成金	病態の可視化から新規治療法開発に挑む ループス腎炎における免疫細胞遊走メカニズムの解明並びに新規治療標的の探索への挑戦	2,000
循環器内科学	主任教授 助教	立石 敬介 加藤 正樹	(公財)上原記念生命科学財団 アッヴィ・合同会社	研究助成金 研究助成金		

附属病院 施設だより

❖ 西部病院 ❖

産後母子ケア「マリハウス」を開始

母性部門では、2024年10月に横浜市産後母子ケア事業、2025年3月に西部病院独自の産後母子ケアの運用を開始しました。

産婦人科外来と母性病棟を一元化しており、産前から産後まで切れ目のない支援を継続しています。病院での妊娠婦との関わりは妊娠から産後1ヶ月健診までの期間で終診となるケースがほとんどです。出産・子育てをめぐる環境変化（女性の社会進出、仕事と家事や育児の両立、核家族化、出産年齢の高齢化など）が進む中、支援を必要とする妊娠婦を早期に把握し、支援につなげていくことが求められています。産後2週間健診では「授乳がうまくいかない」「乳房トラブル」「子どもが寝ない、泣き止まない」「休息がとれない」という声が多く、1ヶ月健診でも「休息がとれない」という声が多く聞かれます。産後の疲労や寝不足に加えて、サポートが希薄であることや新

周産期センター母性部門 師長
山本 恵

❖ プレスト&イメージング先端医療センター附属クリニック ❖

聖マリアンナ医科大学医学部1年生早期体験実習

当院では数年前から聖マリアンナ医科大学医学部1年生の早期体験実習を実施しています。実習は毎年10月から1月までの週1日で、約20名の学生を受け入れています。学生がプレストセンターで実習をすることとなった経緯は、数年前のコロナ禍で毎年実習をしている診療所の受け入れが困難になったためです。実習は臨床を行う前の段階で、実際の診察の見学から事務、看護師、コメディカルの業務を教えています。

この実習は医学生が初めての医療現場での体験となるため、医師になるための重要な実習です。もちろん単位として学業成績にも関係する実習なので、学生の皆さんは頑張って実習をしています。

今後もプレストセンターでは聖マリアンナ医科大学の医学生がより良い学生になるために力を尽くし、法人に協力していきます。

薬剤部 松崎邦弘

2023年度採用研修医の研修修了および2025年度採用研修医について

2023年度採用の臨床研修医が2025年3月に研修を修了しました。大学病院43名（基本プログラム39名、小児重点プログラム2名、産婦人科重点プログラム2名）、西部病院6名、多摩病院10名、法人全体で46名の研修医を迎えるました。

大学病院、西部病院、多摩病院のそれぞれが基幹型臨床研修病院としての役割を担い、病院群全体で研修医の育成、成長に関わっています。

この場を借りて、指導医、指導者、そして病院群を構成する連携病院の全てのスタッフの方々に、日頃の研修医の指導、評価等のご尽力に対し、深く感謝申し上げます。

【2023年度採用研修医 修了後の進路】

	大学病院 43名	西部病院 6名	多摩病院 10名
本学任期付助教	33	0	4
本学大学院	5	0	3
本学以外	5	6	3
	・獨協医科大学 ・横浜労災病院 ・浜松医科大学 ・慈恵会医科大学 ・東邦大学医療センター大森病院	・北里大学病院 ・獨協医科大学病院 ・横浜市立みどり赤十字病院 ・さいたま市立病院 ・沖縄県立中部病院 ・その他	・慶應義塾大学病院 ・東京都立多摩総合医療センター ・株式会社麻生飯塚病院

大学病院



西部病院



多摩病院



聖マリアンナ医大新聞編集委員会 委員名簿

(2025年5月1日現在)

- 委員長 藤谷博人 [スポーツ医学 主任教授]
- 委員 竹村 弘 [微生物学 主任教授]
- 大平善之 [総合診療内科学 主任教授]
- 有戸光美 [生化学 准教授]
- 鈴木昌子 [看護専門学校 校長]

※聖マリアンナ医大新聞は、年2回以上各10,000部を発行し各部署、附属病院、附属施設、名誉教授、聖医会、保護者会、教育関連病院、官公庁他に配布しております。

- 中村孝史 [総務部 部長]
- 鈴木安鶴子 [教学部 参事]
- 松岡正代 [西部病院総務課 主幹]
- 島田久代 [多摩病院総務課 主幹]
- 清水朋子 [栄養部 部長]

- 日下部あづさ [看護部 師長]
- 奥島英明 [総務部 参事]
- 中村 隆 [総務部総務課 係長]



❖ 多摩病院 ❖

ISO 15189をご存じでしょうか

臨床検査部は、ISO 15189認定に向け2021年10月のキックオフから2年、コロナ禍の影響を受け様々なことがありますでしたが、本院に続き2023年10月初回認定が認められました。翌年、2012第3版（現行基準）から2022第4版（新基準）へ移行審査を受審し、2024年10月に新基準で認定されました。

そのISOについて少しお話します。ISOとは、International Organization for Standardization（国際標準化機構）の略称です。世界中の国々が共通の基準をもつことで製品やサービスの品質を保証し、国際的な取引をスムーズに行うために、1947年スイスのジュネーブに設立された非政府組織です。ISOは、様々な業界で品質管理や環境管理など、多岐にわたる分野で国際規格を策定しており、その1つにISO 15189があります。



ISO 15189とは、臨床検査（一般検査、血液学的検査、生化学的検査、免疫学的検査、微生物学的検査など）を実施する臨床検査室の技術能力を証明する手段の1つです。国際規格「ISO 15189（臨床検査室－品質と能力に関する特定要求事項）」に基づき臨床検査室の審査が行われ、臨床検査を行なう能力を有していることが認められたことになります。認定取得後は国際的に認められた基準に準拠して臨床検査室が運営され、検査結果に対する信頼性が向上します。これからより一層の品質管理と技術の向上、そして患者サービスの向上に努めてまいります。

臨床検査部 技術課長 清水直也



聖マリアンナ医科大学 学術情報機関リポジトリ 公開のお知らせ MIRAI (St.Marianna University Institutional Repository of Academic Information)

2月10日より本学機関リポジトリ、略称MIRAI（みらい）が公開となりました。MIRAIは、本学研究者の研究・教育成果物をアーカイブ化し、インターネット経由で無料公開するものです。MIRAIにより、本学の情報公開を推進させ

るとともに、世界と社会に向けて広く知的財産を還元していきます。創立50周年を迎えたことを一つの節目として未来の世代に本学が一層貢献できるように、今後、多種多様な学術成果物を充実させていく予定です。

MIRAI : <https://marianna-u.repo.nii.ac.jp/>

